

次代を担う保育者養成に総意をよせて

実習委員長 犬飼己紀子

保育者養成を主眼とし、30年の歴史を経過してきた上田女子短期大学幼児教育学科は、これまで実に5000有余人の卒業生を保育者として社会に送り出してきた。県内外、各地で活躍されている卒業生の話題を耳にするたび本学の伝統と誇りを感じるところである。

現在、本学には1学年に200余名の保育者を志向する学生が学んでいる。全員が幼稚園教諭2種免許状取得を目指し、加えてその大半が保育士資格の取得を同時に希望するという、長野県内で最大規模の保育者養成機関である。したがって本学の保育者養成校としての社会的責務は大きく、2年間の教育の中で保育者としての資質を磨き、専門職資格取得に向けて教育効果をいかに向上させていくかは永続的な教育研究課題である。教科毎の充実を目指すことはもちろんだが、とりわけ専門教科に位置づけられている「実習」は、全教科を統合した学びに繋がる、具体的総合的な実践科目として最も重要な科目であるといえる。平成13年児童福祉法一部改正にともなう保育士養成関係規定の施行では、「実習」にさらに重きを置く内容が盛り込まれ、学生の実習現場での体験的学習の重要性が強調された。

保育者養成機関にあつては学生の実習指導に取り組むにあたり、全教員が児童福祉法・教育基本法を押さえた普遍的な保育のあり方に加え、近年の乳幼児を取り巻く環境や社会の変化に対応した「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の改定を確実に受け止め、理想の保育環境や保育者像をいかに捉えるかについて統一した見解を持ち、関係諸機関との連携の中で研究の成果や実践を活かし、総力を挙げ学生の指導にあたらねばならない。

ここに「上田女子短期大学幼児教育学科実習年報」を創刊するにあたり、地域にある保育者養成機関として本学の使命を受け止め、幼稚園・保育所・児童養護施設ほか各関係機関との積極的な連携を図り、そのパイプ役として学生の実習機会を活用し、次代の保育者養成を担う立場から保育主体である乳幼児・児童の豊かな人間教育に寄与していくことを願うものである。